

コンテンツ産業による新事業の創成



山形映像アーカイブ

山形県デジタルコンテンツ
利用促進協議会

長谷川 文雄

情報化が進展するに従い、時代と共にその中心課題は変化している。世界最先端の高速通信網、いわゆるブロードバンドも、総務省の発表を見る限り、わが国が世界で最も廉価に利用できる環境になった。ネットワーク基盤ができたところで、次の課題はそれを何に使うかという利用の中身、すなわちコンテンツに注目が寄せられている。コンテンツとは一般に、映画、音楽、ゲーム、放送、出版、新聞などを指している。今関心が高いのはその市場規模である。二〇〇一年のコンテンツ産業の国内市場規模は一兆円、二〇一〇年には一二・二兆円まで成長するといわれている。ほぼ、乗用車の生産額に匹敵する。

政府も二〇〇三年に知的財産戦略本部を内閣に設置し、この問題に真正面から取り組み始めている。成長が見込める産業だけに、いかにそれを健全に成長させ、流通させるかが大きな課題である。

産業構造が転換する中で、コンテンツ産業の育成強化をはかり、製造業に匹敵する日本の基幹産業に発展させるために、国や地方の産業政策との連携が不可欠になっている。また、この分野を担う優れた人材の育成が教育界に求められている。

わが国では、数年前から、コンテンツのデジタルアーカイブ化が産業施策として重要視されてきた。アーカイブの本来の意味は「後世に伝え残す」だが、現在では「利活用を前提にして体系立て、後世に残す」のように拡大解釈されている。

ここで注目している映画、音楽、ゲームなどの製品や素材としてのコンテンツはデジタルアーカイブ化によって新たなビジネス流通の担（も）に載る。このアーカイブ化技術がデジ

タルコンテンツを健全に、有効に、使いやすく流通させる基本技術となる。

こうした背景のもとに、一九九九年より、山形県では通信・放送機構（TAO、二〇〇四年四月より独立行政法人情報通信研究機構「NICTに改称）直轄の事業として、デジタルアーカイブに関する先端的な研究を行ってきた。現在は山形県の協力のもと、県内の企業で組織されている「山形県デジタルコンテンツ利用促進協議会（YDCC）」が、日本で唯一アーカイブ事業とコンテンツ流通産業を推進している。既にいくつかの顕著な成果が挙がっており、なかには事業化されたものもある。特に観光・教育分野で大きな成果を挙げている。

山形県デジタルコンテンツ利用促進協議会では、時代の要求する産業強化施策に沿って、着々とそのアーカイブ化基本技術を積み重ねており、この先行投資が実り成長するに従い、新たな雇用を生む母体となる可能性を秘めている。



山形県デジタルコンテンツ利用促進協議会のホームページ
(一部抜粋) <http://www.archive.gr.jp>

エンターテインメントを中心としたソフトウェア創作産業、とりわけアニメ業界においては、「ポケモン」をはじめ、宮崎駿監督による「千と千尋の神隠し」などの作品によって、日本のアニメ制作レベルの水準の高さを世界に示した。この分野の持続的なヒット作品創出の期待は全国的に高まりつつある。

芸術的価値の高いコンテンツは、観光誘致にも効果を発揮する。例えば、日本銀行下関支店の発表によると、NHKの大河ドラマ「武蔵MUSASHI」放映による山口県内への経済効果は、当地に訪れた観光客による直接効果が九十八億円、それによって生じた間接効果が五十億円としている。その合計額百四十八億円は山口県内総生産額(十二年度)の約〇・三％に相当する規模になるという。

最近では、「冬のソナタ」が日本でブームを

もたらしたが、ビデオと書籍だけの経済効果でも百十億円といわれている。

山形県内にも最近では映画のロケブームが巻き起こっているが、「隠し剣 鬼の爪」や、現在上映中の「スウィングガールズ」などから得る山形県への経済効果も多少ならず見込まれるといえる。

観光産業におけるデジタルアーカイブ波及効果の重要性は諸外国においても認識され、関連する諸施策が継続的に実施されている。例えば、英国では文化メディア・スポーツ省(CDM S)が、映画・テレビ作品のロケ地と作品紹介を記載した地図(ムービーマップ)を作成し、映画等を通じた観光振興を図るなど、コンテンツをフルに活用した観光客誘致戦略が実践されている。

山形県では、五年前から他の地方自治体に先駆けて地域に根ざしたコンテンツ収集活動を行い、撮影編集等の取材技術、アーカイブ化技術も体験的に習得し、実践を重ねて行く間に技術レベルが向上し、今日では、他の同様の取り組みを指導し牽引するレベルにまで到達した。

現在、協議会で所有する映像コンテンツは三千タイトルにも及んでいる。映像資産は、文化的な価値、商用的な価値ばかりではなく、なによりも山形県人の心のアイデンティティー形成に果たす役割が大きく、全国でも類を見ない大きなポテンシャルを持つアーカイブとして自負しているところである。放送、通信、デザイン業界等の企業のほか、東北芸術工科大学、山形大学、東京大学、山形県産業技術大学、そして山形県、山形市などの自治体が会員として強力に営業技術サポートを

行いながら活動を行っている。また、事務局から国内外へ向けて数多くの技術発表を行うことにより、最新のコンテンツ流通技術を有する強力なスタッフの存在が知れ渡り、国内外で高い評価を得る団体へと成長した。研究成果の一部は、英国の出版社からの依頼により、商業出版されている。

これからは放送業界もいよいよ本格的なデジタル化時代を迎え、番組制作、流通方法も変革を余儀なくされていくだろう。そのうねりは世界的に起きている。グローバル化を視野に入れた二十一世紀の山形県の新産業基盤づくりと、雇用促進、個性ある地域の誇りとしての伝統文化の継承を活動機軸にして、これからの山形県の新規創成起業のシンボルの存在として、地域ブランド性の高い事業を行い、他に比類のない競争力を保持したい。特に次世代を担う人材の育成に力を入れていきたい。

長谷川 文雄 (はせがわ・ふみお)

東北芸術工科大学大学院長
山形県デジタルコンテンツ利用促進協議会顧問
昭和23年東京生まれ。電気通信大学大学院修了後、清水建設入社。総合研究開発機構、MIT、東京大学先端研を経て、現職。工学博士。
専門はシステム工学、都市情報学。1999年より、TAOの大容量映像アーカイブ研究のリーダーを務める。
事務局：〒990-2473 山形市松栄1-3-8
山形県産業創造支援センター内
電話 023-647-8121・FAX 023-647-8122
URL：<http://www.archive.gr.jp/>